

市民説明会

小諸市学校教育審議会

中間まとめ

2020年 7月 3日

小諸市学校改築・再編基本方針の内容

(1)基本的な考え方

小諸市で育つ子ども
にとって「より望ましい
学校の姿」はどうある
べきかという視点を最
優先に議論を進める

(2)望ましい小学校の規模

1学級20～30人
1学年少なくとも2～3学級
「望ましい学校の姿」の実現
のため小学校の再編が必要
な状況であることを明確化

(3)小中の配置・校区

通学区の見直し
小中一貫制度
通学路の安全と
遠距離通学

中間報告までの審議項目

より望ましい学校の
姿の決め出し

小学校再編が必要な状況
であることの明確化

小中一貫制度
の是非

審議の進め方

児童生徒を取り巻く社会と教育の状況



より望ましい学校の姿



実現を図る教育の在り方



学校運営の在り方

体制づくり 環境づくり



小中一貫教育制度導入の是非

審議の在り方

児童生徒の教育は学校だけでできるものではなく、
はなくなってきた。

市民の皆様に、審議会がなぜそう考えたか、
その根拠の部分をご理解いただけるよう、
そして、共有していただき、これから小諸市で
育つ児童生徒の育成を市民の皆様のお力を
いただいで進めることができるものとなるよう
にすること

児童生徒を取り巻く社会と教育の変化

- 高い志や意欲を持って、他者と協働しながら未来を創り出していく資質・能力が求められている。
- 小諸市の生産年齢人口も今後急速に減少していく。どの子どもも近い将来を担う大切な人材である。
- 学校教育の変革が始まっている。

育成を目指す資質・能力

<知識や技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力等>
・高校入試改革、大学入試改革の進行

求められる資質・能力(学力)の育成、
志や意欲、高校選択の力を育むことが急務

市教委へのヒアリング等より

- 全国学力学習状況調査の結果は
全国平均点と比較するとあまり差はないが、
学力の育ちにはばらつきがあることが課題
思考力・判断力・表現力の育成が課題
- 不登校児童生徒は中学1年生、2年生で急増小学校
6年から増加
- 通常学級にも特別な支援を必要とする児童生徒が
幾人も在籍。小学校入学段階は多くの児童に配慮

教育委員会も各学校も対応を考え取り組みを推進

「より望ましい学校の姿」

(1) 学力はどの児童生徒にとっても自分の問題である。だれもが「向上したい」と願う。

どの児童生徒も小学校・中学校の学びを通して、求められる資質・能力(学力)を育み、自分の特性を理解し、将来への希望や志を持つことができるような力が育つ学校

(2) 不登校は、取り巻く環境によってどの児童生徒にも起こりえる。

対策は全ての児童生徒が対象となる。

児童生徒だれもが学ぶ喜びや意欲をもって登校できるような取り組みと不登校児童生徒への支援体制づくりが行われる学校

(3) 通常学級にも特別な支援を必要とする児童生徒が幾人も在籍している。

どの児童生徒も共に学び育つ仲間であることを踏まえ互いの違いを尊重しつつ、一人一人に主体性や共感的態度の育つ特別支援教育が推進される学校

「より望ましい学校の姿」

児童生徒にとって「私がよりよく成長し、未来への希望や志をもつことができる」学校であることが何よりも望ましい学校の姿である。



児童生徒「一人一人」の学びを支える
教育を推進する学校

どのように取り組むか

中学校の実践（数学）

授業に合わせ4問から5問程度の問題を作って宿題に出す。加配の先生も加わり全生徒の宿題を採点し、一人一人の生徒に返す。必要に応じて個別指導をした。

「自分のことを見ていてくれる」**先生への信頼**

「自分もやればできる」 **自信、自己肯定感**

「取り組んでみよう」 **意欲**

生徒の学力が伸びる

意欲や自信、自己肯定感の向上が生徒の
学びを支えるものとなる。……他に？

心の育ち …… 非認知能力

- 児童生徒が仲間と心をつなげ、意思を伝え合い、共
感し理解し合う 「コミュニケーション能力」
- 他者と協調し、信頼し、共に取り組む
「人間関係形成能力」
- 自分の学ぶ意味や目標を見つけ出し、
「粘り強くやり抜こうとする姿勢」

小学校(算数学習)の事例

一人一人の児童が自分はどうのような筋道で問題を解いたのか、友達にも分かるように言葉で書き表す取り組みを積み重ねた。

思考し、判断し、表現することは言語で行われる。言語が豊かになることで、学力は向上していく。人と心をつなげる力も向上していく。

言語能力の向上

「一人一人」の学びを支える教育

児童生徒が「自分で取り組み、出来るようになってきたこと」を実感できるようにした教師、あるいは教師チームの献身的な支え。

その中で、心の育ち<非認知能力>、言語の育ちが子ども自身の学びを支え、求められる資質・能力(学力)が育成された。

こうした取り組みが学校職員・市民によって推進される教育

実現への課題と方策

- 多くの人手や時間を要する。
- 一つの学級、一つの学年だけで取り組んでも、また、小学校だけで向上させても、途切れる。
中学校だけで向上させようとしても、難しい。



- 人手や時間の確保
- 9年間を見通した、
継続的、系統的な取り組み

学校体制づくり

○学校教職員と行政サービスの集約

「一人一人」の学びを支える学校職員数を確保
学年や教科がチームで協働して当たる指導

○市民参加による教育の推進

児童生徒を支える活動への地域市民参加
信州型コミュニティ・スクールの組織の充実

○ICT機器の活用

主体的・対話的で深い学び、自分の進歩の状況や課題に合わせて進める学習を実現するためのICT機器の充実と活用の推進

9年間を見通した 一貫性のある教育を進める取り組み

- 小中9年間を通して連続的・系統的に教育を進めるカリキュラムをつくり、全職員が同じ目標をもって指導に当たること
- 小学校・中学校間で検証、課題共有、改善（カリキュラム・マネジメント）を推進すること

実現のためには小中一貫教育制度の導入は必要である。

小中一貫教育の形態

<小中一貫教育>

○義務教育学校

一人の校長の下で教職員集団が一貫した教育課程を編成・実施する9年制の学校で教育を行う形態

○併設型小学校・中学校

既存の小学校及び中学校の基本的な枠組みは残したまま、組織上独立した小学校及び中学校が義務教育学校に準じる形で一貫した教育を施す形態

小諸市の小中一貫教育の形態と 小学校再編

芦原中学校と小諸東中学校を学区とする併設型小学校・中学校の形態で小中一貫教育を推進することが望ましい。

小学校再編は併設型小学校・中学校の形態を実現することを念頭において進めることとする。再編により小学校を新設する場合は少しでも中学校に近いことが望ましい。

小中9年間を通じた連続的・系統的に進める教育は

小学校の再編が完了するまで待つのではなく、出来るだけ早く小学校5年、6年、中1の小中学校の接続を中核としながら、小・中学校間で目指す子ども像を共有し、同じ方向性をもってカリキュラムの編成、実施、マネジメントを行う取り組みを推進していただきたい。